

令和 6（2024）年度

学修状況等の把握に関するアンケート結果

（短期大学部版）

生活文化学科 幼児教育学科

修文大学短期大学部 I R本部

## < 目 次 >

|  |    |
|--|----|
| 1. 令和6（2024）年度 学修状況等の把握に関するアンケートの総括                                    | 1  |
| 2. アンケートの目的  | 1  |
| 3. アンケート実施期間   | 1  |
| 4. アンケート対象者数と回答率   | 2  |
| 5. 短期大学部全体のアンケート結果   | 4  |
| 問1. 授業の予習・復習時間等（実習記録・課題・レポートや作品の作成及び資格試験の自習を含む）に使った1週間の合計学習時間を教えてください。 | 4  |
| 問2. 問1で回答した予習・復習時間等（実習記録・課題・レポートや作品の作成及び資格試験の自習を含む）についてどう感じていますか。      | 7  |
| 問3. 問2で④不足している、③やや不足していると回答した人はその原因は何ですか。（複数回答可）                       | 10 |
| 問4. 問1の学習時間の内、資格試験対策に使った1週間の合計学習時間を教えてください。                            | 13 |
| 問5. 予習・復習に用いる教材はどれですか。（複数回答可）  | 15 |
| 問6. 普段、学習している場所はどこですか。（複数回答可）  | 17 |
| 問7. 授業時間以外で、学習やクラブ活動、友人との交流等のために学内にいる1週間の合計時間を記入してください。                | 19 |
| 問8. アルバイトを行っている1週間の合計時間を記入してください。                                      | 20 |
| 問9. 予習、復習を行うためにどのようなサポートを必要としますか                                       | 21 |
| 問10. 本学の学習環境を向上するために希望することを自由に記述してください。                                | 23 |

## 1. 令和 6（2024）年度 学修状況等の把握に関するアンケートの総括

短期大学部において学生の学修状況を把握し今後の教育に生かすため、アンケートを行った。回答率は 97.3%と高値であった。

短期大学部全体では、予習・復習等の学習時間は平均 8.9時間/週であった。昨年度と比較して 0.1時間/週増加した。1 年生は平均 8.3時間/週、2 年生は平均 14.2時間/週、3 年生（幼教 3部）は平均 8.4時間/週であった。

このうち資格試験対策のための学習時間は平均 4.1時間/週であった。昨年度と比較して 0.6時間/週増加した。

学修時間がまあまあ十分と考えている学生は 48.5%であった。学習時間が不足している主な原因としてアルバイトが最も多く、次いでスマートフォン・タブレットの使用時間が長い、プライベートの時間が多いなどの順であった。

学習に用いる教材として、シラバスにある教科書・教材が最も多く、次いで、講師による配布資料、資格試験用テキストの順であった。

学習場所は、自宅・下宿・寮での学習がほとんどであった。授業以外で学内にいる時間は平均 4.1時間/週であった。昨年度と比較して 1.2時間/週増加した。

アルバイトの時間は平均 13.0時間/週であった。昨年度と比較して 2.1時間/週減少した。

結論として、短期大学部全体の予習・復習等の学習時間は平均 8.9時間/週であった。そのうち資格試験対策のための学習時間は平均 4.1時間/週であった。学習時間を多くするためにはアルバイト時間の指導およびスマートフォン・タブレットによる e ラーニングが有効であると思われる。学習場所として図書館の利用促進を強化することが求められる。

ディプロマポリシーにある専門的知識・技能の修得には、まず学修時間の確保が必要であり、昨年に比較して増加傾向ではあるが、まだまだ不足していると考えられる。今後とも学修時間の確保のための改善策を考え実行していきたい。

I R本部 本部長  
学長 丹羽 利充

## 2. アンケートの目的

本アンケートは、授業アンケートとは別に学生の学修状況等の実態を掴み、今後の教育に生かすために実施するものである。

## 3. アンケート実施期間

令和 6 年 8 月 5 日～ 8 月 10 日（10 月 22 日まで回答内容確認作業有り）

#### 4. アンケートの対象者数と回答率

対象者・回答者の単位：人

| 短期大学部 | 1年生   | 2年生   | 3年生(幼三) | 合計・回答率 |
|-------|-------|-------|---------|--------|
| 対象者   | 141   | 144   | 49      | 334    |
| 回答者   | 137   | 139   | 49      | 325    |
| 回答率   | 97.2% | 96.5% | 100%    | 97.3%  |

対象者・回答者の単位：人

| 生活文化学科 | 1年生  | 2年生  | 合計・回答率 |
|--------|------|------|--------|
| 対象者    | 60   | 73   | 133    |
| 回答者    | 60   | 73   | 133    |
| 回答率    | 100% | 100% | 100%   |

(コース別)

対象者・回答者の単位：人

| 生活・医療事務 | 1年生  | 2年生  | 合計・回答率 |
|---------|------|------|--------|
| 対象者     | 24   | 23   | 47     |
| 回答者     | 24   | 23   | 47     |
| 回答率     | 100% | 100% | 100%   |

| オフィスキャリア | 1年生  | 2年生  | 合計・回答率 |
|----------|------|------|--------|
| 対象者      | 13   | 17   | 30     |
| 回答者      | 13   | 17   | 30     |
| 回答率      | 100% | 100% | 100%   |

| 製菓  | 1年生  | 2年生  | 合計・回答率 |
|-----|------|------|--------|
| 対象者 | 23   | 33   | 56     |
| 回答者 | 23   | 33   | 56     |
| 回答率 | 100% | 100% | 100%   |

対象者・回答者の単位：人

| 幼児教育学科 | 1年生   | 2年生   | 3年生(幼三) | 合計・回答率 |
|--------|-------|-------|---------|--------|
| 対象者    | 81    | 71    | 49      | 201    |
| 回答者    | 78    | 67    | 48      | 193    |
| 回答率    | 96.3% | 94.4% | 98.0%   | 96.0%  |

( 部 別 )

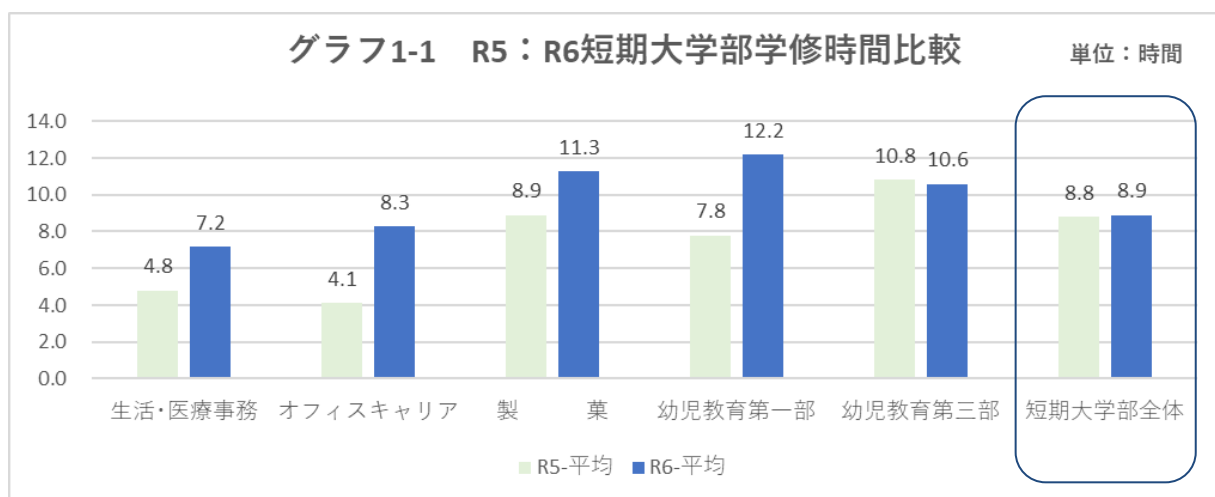
対象者・回答者の単位：人

| 第一部 | 1年生  | 2年生  | 合計・回答率 |
|-----|------|------|--------|
| 対象者 | 15   | 8    | 23     |
| 回答者 | 15   | 8    | 23     |
| 回答率 | 100% | 100% | 100%   |

| 第三部 | 1年生   | 2年生   | 3年生   | 合計・回答率 |
|-----|-------|-------|-------|--------|
| 対象者 | 66    | 63    | 49    | 178    |
| 回答者 | 63    | 59    | 48    | 170    |
| 回答率 | 95.5% | 93.7% | 98.0% | 95.5%  |

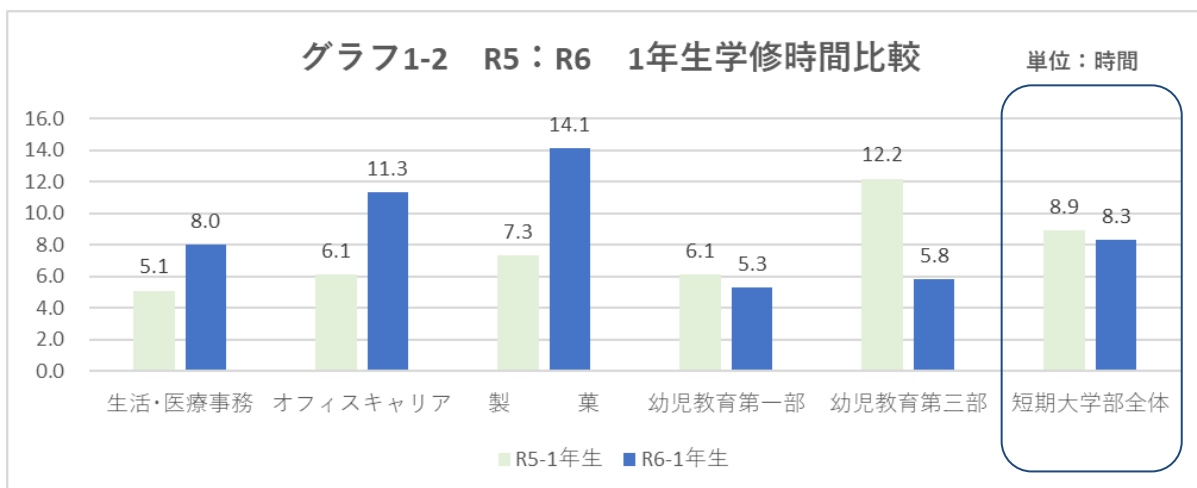
## 5. 短期大学部全体のアンケート結果

問1. 授業の予習・復習時間等（実習記録・課題・レポートや作品の作成及び資格試験の自習を含む）に使った1週間の合計学習時間を教えてください。※時間数を整数で記入してください。行っていない場合は0を記入してください。



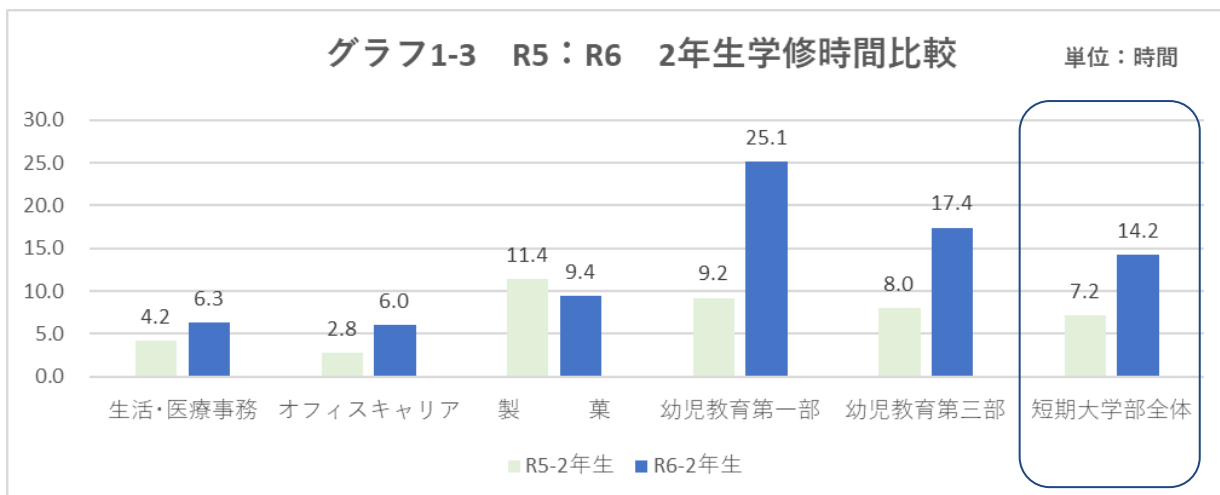
短大全体で予習・復習等に使った1週間の平均時間は8.9時間という結果であった。

昨年度は短期大学部全体で8.8時間であったので、昨年度対比で0.1時間増加した。コース・部別でみるとオフィスキャリア、製菓、幼児教育第一部が減少し、生活・医療事務が微増、幼児教育第三部が昨年度7.5時間で、今年度は10.8時間なので3.3時間増加した。



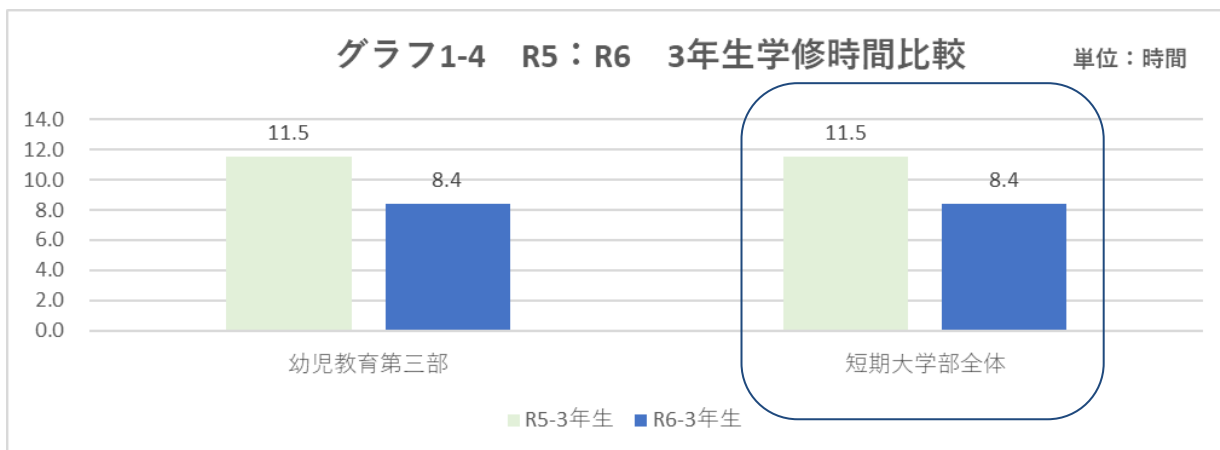
短大1年生が予習・復習等に使った1週間の平均時間は8.3時間という結果であった。

昨年度対比で1年生は、0.6時間の減少だが、幼児教育以外は大幅に時間数を伸ばした。



短大2年生が予習・復習等に使った1週間の平均時間は14.2時間という結果であった。

昨年度対比で2年生は、7.0時間の増加。製菓は少し減少したが、あとは大きく増加している。



短大3年生（幼児教育学科3年生）が予習・復習等に使った1週間の平均時間は8.4時間という結果であった。

昨年度対比で、幼児教育学科3年生は3.1時間の減少。

<問1について>

短期大学部 生活文化学科と幼児教育学科はディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を下記のように定めている。

【生活文化学科】

1. 豊かな人間性と社会倫理を身に付けている。
2. 生活者として教養を深め、生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決することができる。

3. 社会人に必要な知識や技術をもち、自らのスキルを向上するための努力を継続することができる。
4. 各分野のスペシャリストとして、専門的な知識や技能を修得している。
5. 社会の一員として貢献することができる。

#### 【幼児教育学科】

1. 豊かな人間性と社会倫理を身に付けている。
2. 幼児教育・保育の専門家として、専門的な知識や技能を修得している。
3. 幼児教育・保育の専門家として、学び続ける姿勢を持っている。
4. 幼児教育・保育の当事者と協働できるルール・マナーを身に付けている。
5. 社会の一員として貢献することができる。

本学調査では、授業関連の学習時間と資格試験の自習を合わせた平均が8.9時間であり、全国調査でも短大2年生以上の大多数が、両者それぞれについて「5時間以下」と回答している。本学は1週間の平均学修時間 8.9 時間を、まず10時間に増やすことを目標とするべきである。

2024(R6)年3月卒業時アンケートでは、ディプロマポリシーに関連する質問に対し、生活文化学科で97.1%、幼児教育学科で99.5%の学生が必要な力を身につけたと回答している。この高い自己評価は、令和4年度「全国学生調査」にみられる全国的な短大生の傾向と一致している<sup>1</sup>。しかし、学則で定められた学習時間と比較すると、学習時間は大幅に不足している<sup>2</sup>。

生活文化学科では、2年生の学習時間がやや伸びている一方、1年生の全コースで大幅に増加している。この学習習慣が次年度の2年生の成果向上につながることを期待される。

幼児教育学科では、第一部は年間履修科目が多いため授業関連の学習時間が多くなる傾向がある。他方、午後に授業がない第三部は自主的な学習時間を確保しやすい環境にあるが、R6調査で1年生の学習時間が半減している。この背景には、ピアノ練習時間の減少が大きく影響していると推測される。また、関連科目の単位を取得できなかった学生が多かったことの要因の一つである。また、第三部3年生の学習時間低下については、教育課程の変更に伴う単位数の減少が影響している可能性がある。

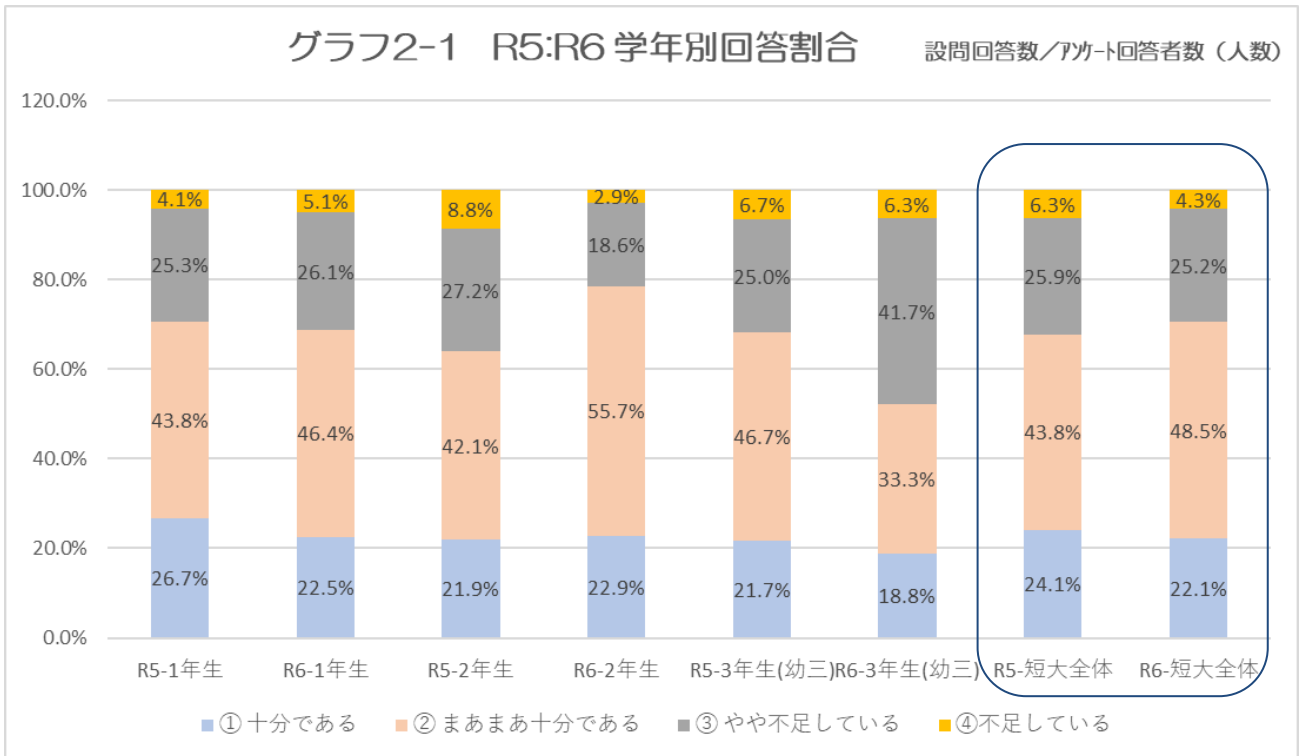
---

<sup>1</sup> 実施期間は令和4年11月28日（月）～令和5年1月20日（金）。試行実施に参加意向のあった532大学に在籍する学部2年生（約46万人）及び4年生等（約49万人）、参加意向のあった短期大学148校に在籍する2年生以上（約2.4万人）。大学4年生等、および短大2年生以上は、標準修業年限における最終学年の学生が対象となる。短大生は、職業教育の成果について「将来の仕事につながるような知識・技能」が「身に付いた」「ある程度身に付いた」が計94%（大学80%）など、「全体として、短期大学の学生は、自らの成長や身に付けた知識・技能について、大学の学生と比較してより肯定的に評価していることが明らかになっ」ている。

<sup>2</sup> 前掲文科省の調査では、「予習・復習・課題など授業に関する学習」が5時間以下の学生の割合が75%であり、「授業と直接関係しない自主的な学習（学問に関係する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）」では5時間以下が81%を占めている。



問2. 問1で回答した予習・復習時間等（実習記録・課題・レポートや作品の作成、及び資格試験の自習を含む）についてどう感じていますか。



②まあまあ十分であると回答した学生が最も多く回答者の48.5%という結果であった。

昨年度も、②まあまあ十分である が最も多かったので、同じ傾向にある。

<問2について>

全ての学年で② まあまあ十分である が最も多くなっている。短大全体で、「十分である2%減」、「まあまあ十分である4.7%増」、「やや不足している0.7%減」、「不足している2%減」という結果をみると現状の学習時間数に十分とを感じている学生が増えているという結果になる。全ての学年で同じ傾向にあり、この変化が何故生じたのかの分析も必要と思われる。

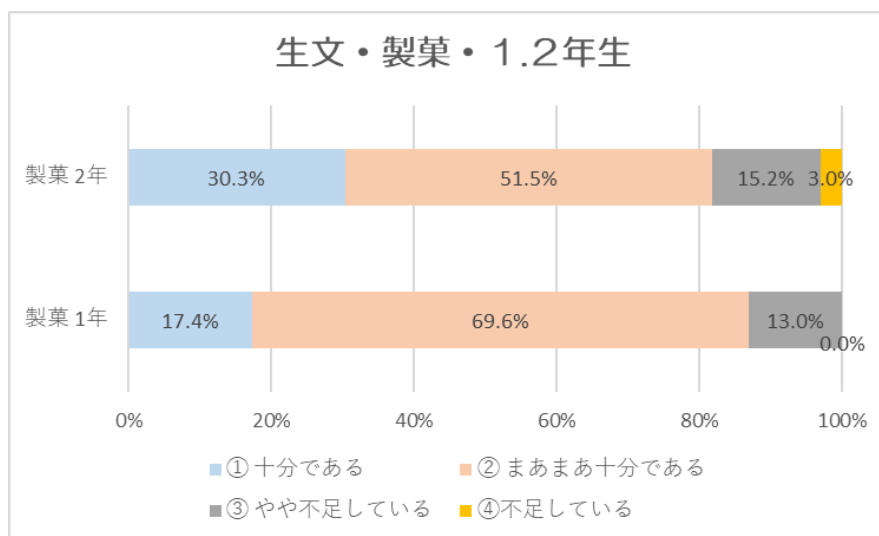
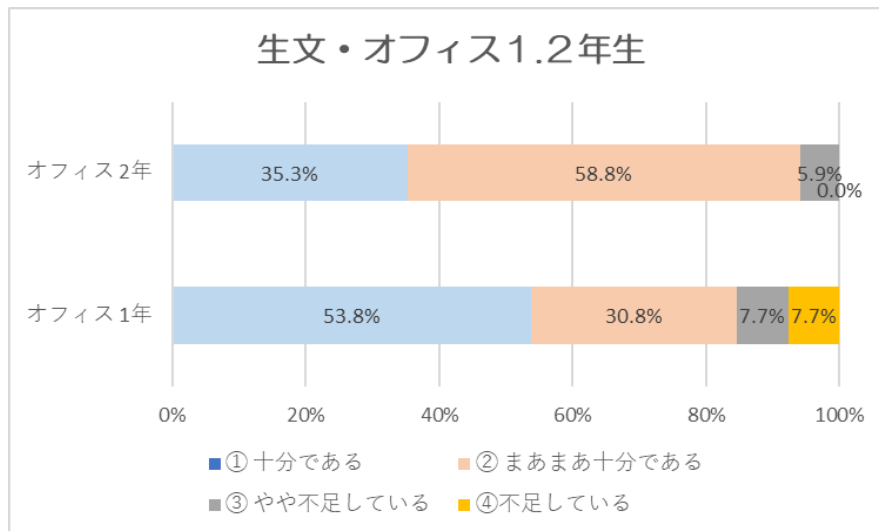
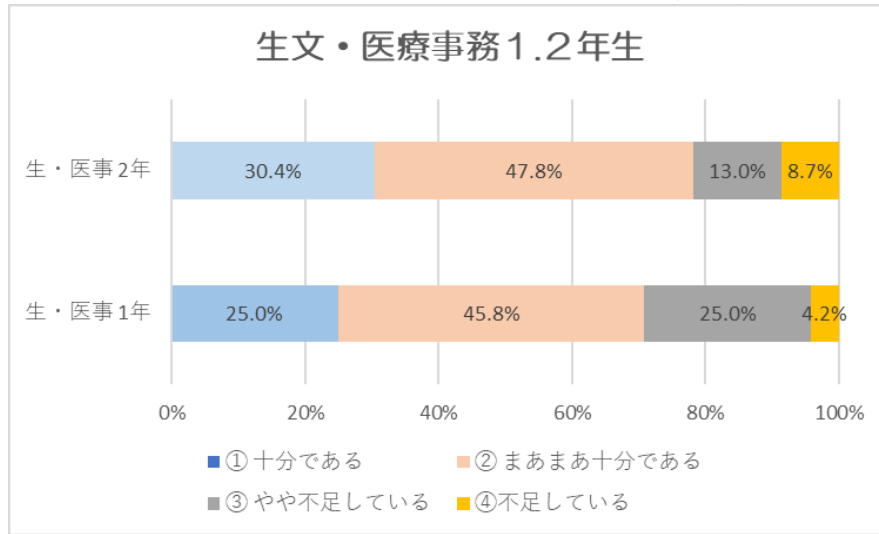
また、製菓1年・幼教一部2年では、「不足している」の回答0は気になる。

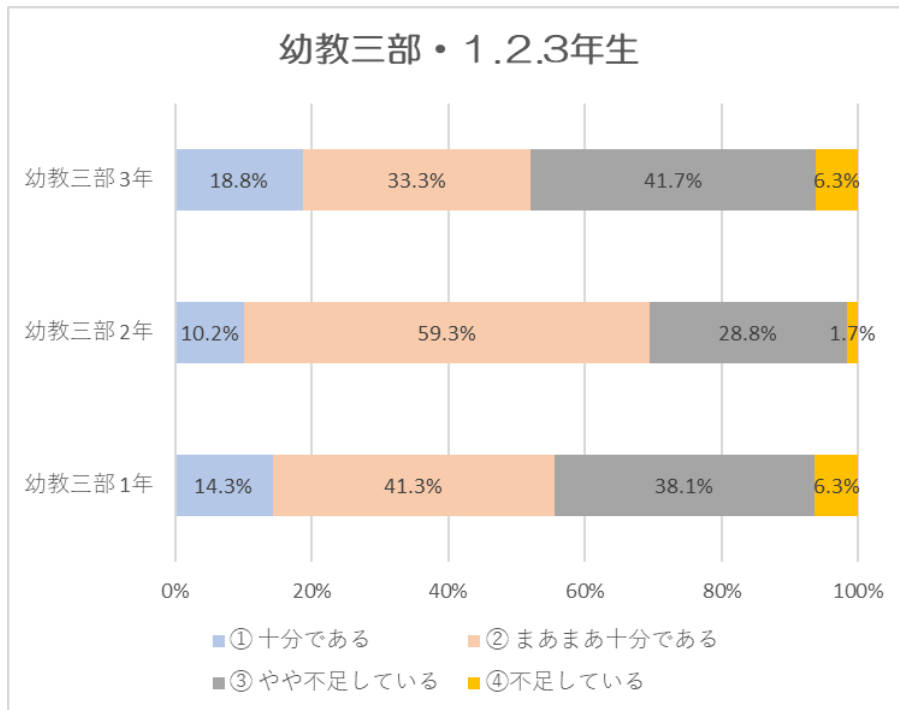
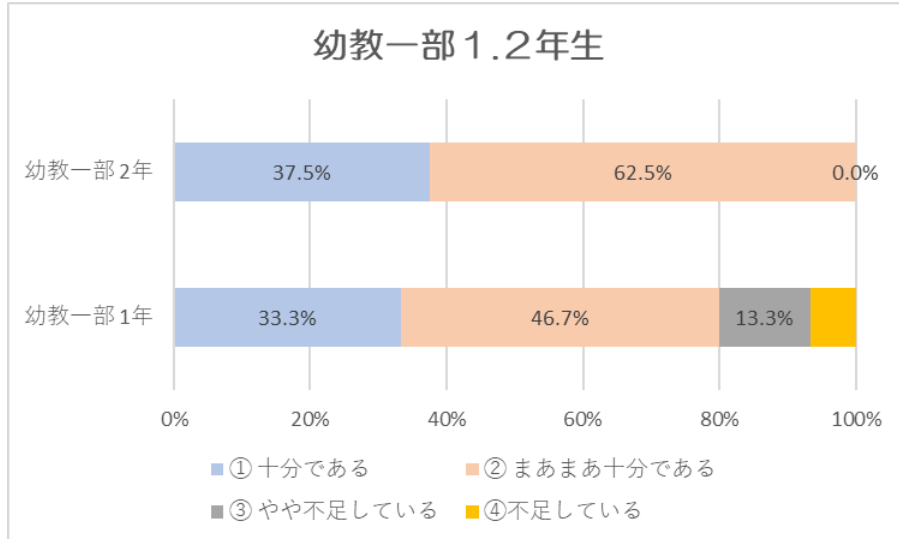
「不足していない」「充足」という認識の度合いは、学習への取り組み・継続に係る自己調整の能力・幅にも反比例しており、「精一杯でこれ以上できない」「これ以上やりたくない」「もうたくさんだ」という感情が生まれているかもしれない。

R6三部3年の48%が「不足」を回答しているが、なにをもって「不足」と感じるのだろうか。回答された学習時間は、確かに法令上・学則上不足しているのだが、そのことではあるまい。一つの可能性としては、同学年での定期試験が少ないことから、「学生やっている感じがしない」という感覚があるかもしれない。あるいは、やがて到来する就職を前にして、通用するか不安で気ばかりが焦っている、ということも考えられる。表層的な功利性や効力感だけを求めずに、学生には現状に満足することなく学習時間を確保してほしい。

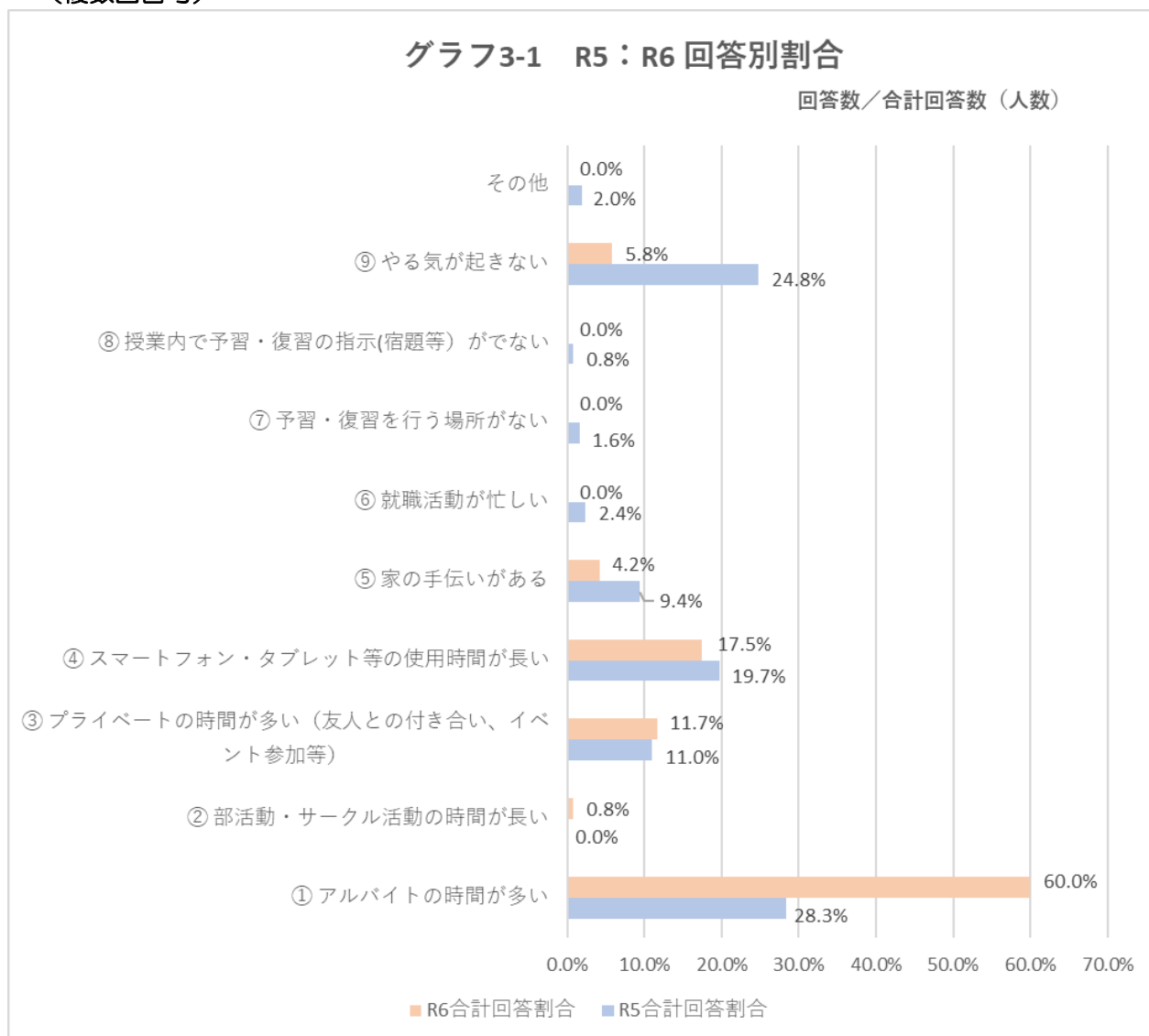
【グラフ 2-2】 問 2 の各コース、部 別の結果は次のとおり。

設問回答数/アンケート回答者数 (人数)





問3. 問2で④不足している、③やや不足していると回答した人はその原因は何ですか。  
 (複数回答可)

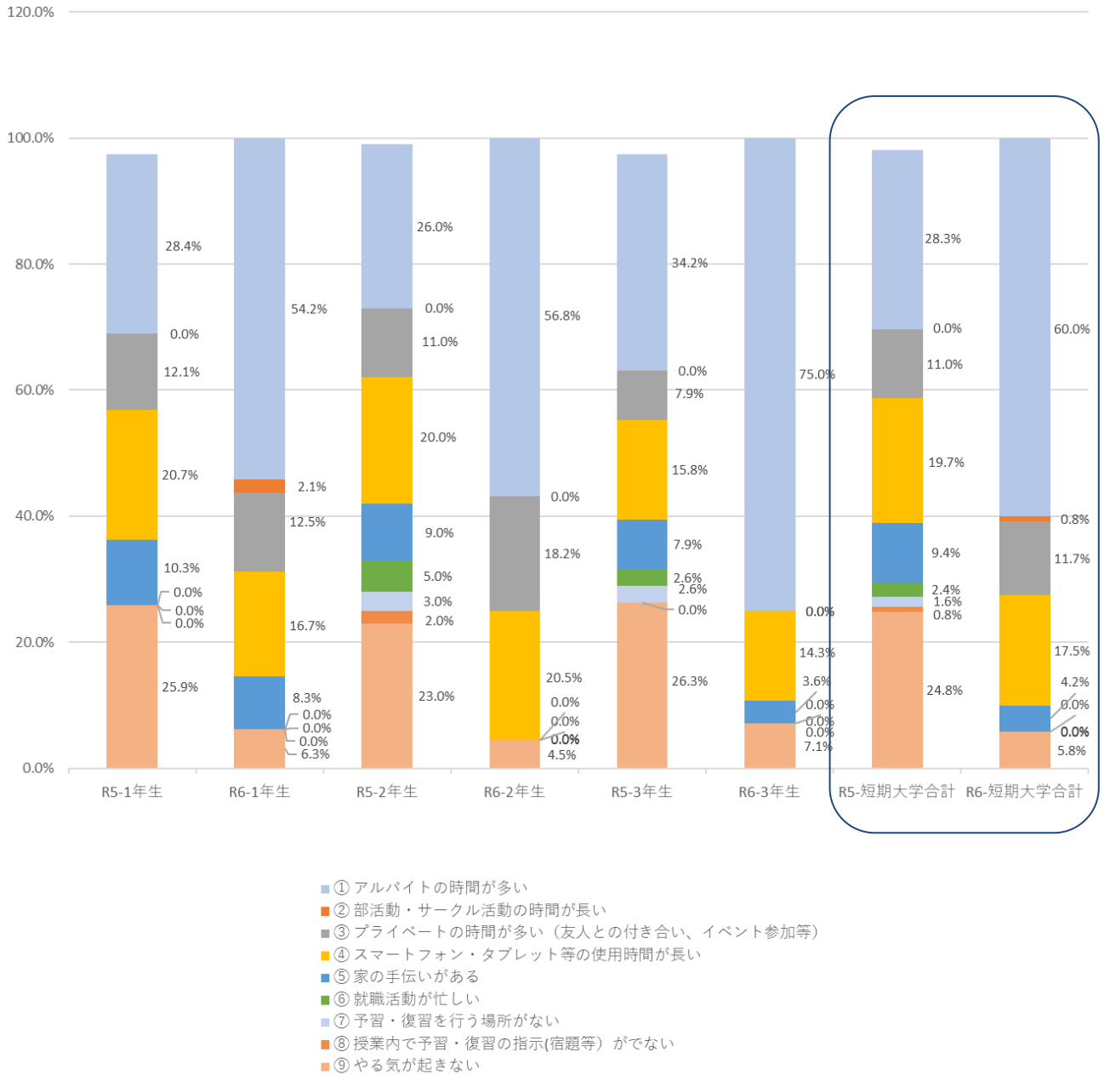


1位「① アルバイトの時間が多い」60.0%、2位「④ スマートフォン・タブレット等の使用時間が長い」17.5%、3位「③ プライベートの時間が多い（友人との付き合い、イベント参加等）」11.7%、で1～3位で全体の89.2%であった。

昨年度と比較依した場合、「① アルバイトの時間が多い」が2倍となり、「④ スマートフォン・タブレット等の使用時間が長い」が3位から2位となり、「③ プライベートの時間が多い（友人との付き合い、イベント参加等）」が4位から3位となり入れ替わった。

グラフ3-2 R5:R6 学年別 回答割合比較

回答数/合計回答数(人数)



問2で④不足している、③やや不足していると回答した学生が、その原因として回答した設問をグラフ3-2でR6、R5年度・学年別でみると、回答数が一番多かった「① アルバイトの時間が多い」は、対前年比で、1年生25.8%増、2年生30.8%増、3年生（幼教三部3年生）が最も増加していて40.8%増となっている。対照的に「④ スマートフォン・タブレット等の使用時間が長い」は対前年比で、減少している。

最も減少したのは、「⑨ やる気が起きない」で19%減となっている。

### <問 3 について>

学習時間を確保できない理由について、「やる気が起きない」がR5調査で全学年平均24.8%であったが、R6調査では5.8%に減少した。一方で、「アルバイトの時間が多い」が28.3%から60%に急増しており、「やる気が起きない」がアルバイト時間に吸収された形である。アルバイト時間の増加は、学修時間を圧迫する要因となる可能性が高いが、幼児教育学科では筆記試験が少ないなど、授業関連で必要とされる学習時間が短い傾向も見られる。

アルバイト時間の増加は、昨今の物価上昇による学生の支出増加が背景にあると推測される。また、幼児教育学科では保育所等でのアルバイトが授業外の学習や就職活動の一環となる場合もあり、一概に問題視することが難しい面もある。しかしながら、学習に支障をきたすほどのアルバイト時間には注意が必要である。スマートフォンやタブレットの長時間使用が学習時間の減少に影響を与えている。これには、学費に匹敵する機器の購入費と通信費の負担、SNSへの没入による心身の不調、さらには認知パフォーマンスの低下<sup>3</sup>など、小さくないリスクを伴う。こうした問題に対しては、学生生活におけるファイナンシャル・プランの観点からの指導のほか、「意図的な切断」を可能にするアプリの勧奨といった対策が有効である。

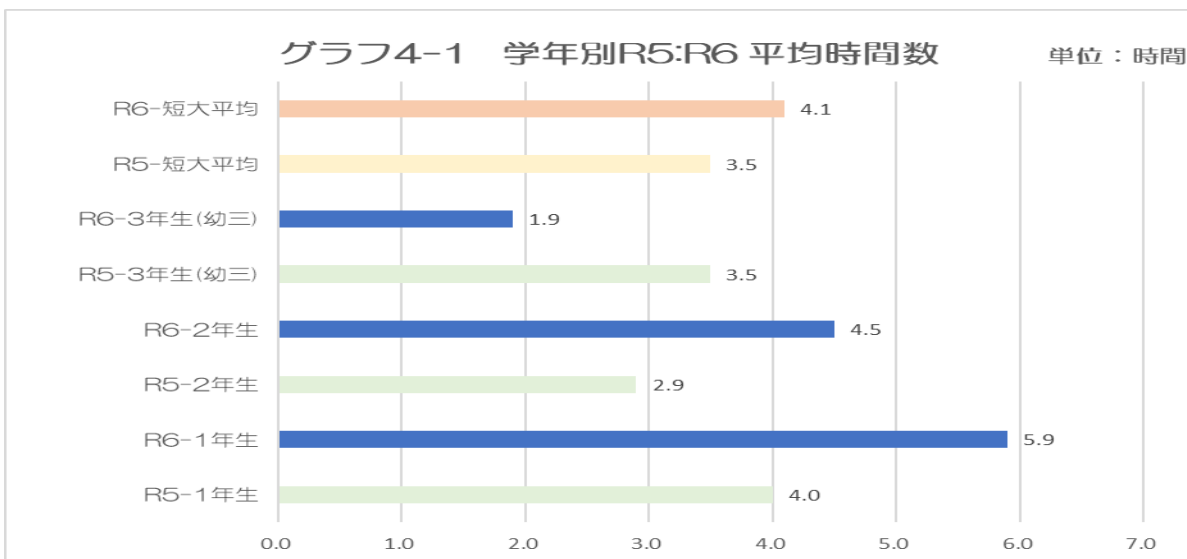
「やる気が起きない」の減少は、アルバイト時間の増加が影響していると考えられるが、不登校につながる可能性もある。文部科学省の調査によれば、不登校の理由として「学校生活へのやる気の低下」が32.2%と最も多く、保護者の学校への意識変化やコロナ禍による登校機会・意欲の低下が背景にあるとされる<sup>4</sup>。現在の短大生がこうした環境で育ってきたことを踏まえ、支援を検討する必要がある。

---

<sup>3</sup> Adrian F. Ward, Kristen Duke, Ayelet Gneezy, and Maarten W. Bos “Brain Drain: The Mere Presence of One’s Own Smartphone Reduces Available Cognitive Capacity” Journal of the Association for Consumer Research, Volume 2, Number 2, April 2017.

<sup>4</sup> 続いて「不安・抑うつ相談があった。」(23.1%)、「生活リズムの不調に関する相談があった。」(23.0%)、「学業の不振や頻繁な宿題の未提出が見られた。」(15.2%)、「いじめ被害を除く友人関係をめぐる問題の情報や相談があった。」(13.3%)の順で多かった。

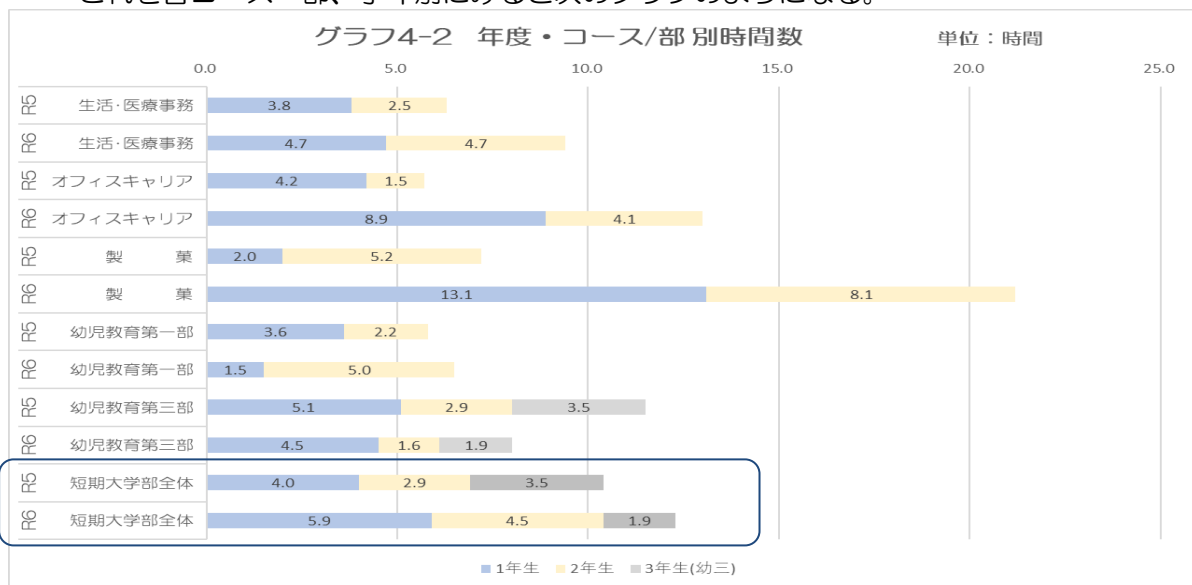
問4. 問1の学習時間の内、資格試験対策に使った1週間の合計学習時間を教えてください。  
 ※時間数を整数で記入してください。行っていない場合は0を記入してください。



短大全体で資格試験対策に使った1週間の平均時間は4.1時間という結果であった。

昨年度は3.5時間だったので、0.6時間増加した。3年生(幼教三部3年生)は1.6時間減少、2年生は1.6時間増加、1年生は1.9時間増加となった。

これを各コース・部、学年別にみると次のグラフのようになる。



グラフのとおり、生活文化学科は、全体的に増加傾向である中で、生活・製薬コースの1年生が11.1%と最も時間数が増加した。幼児教育学科は、第一部の2年生以外は全て時間数が減少した。

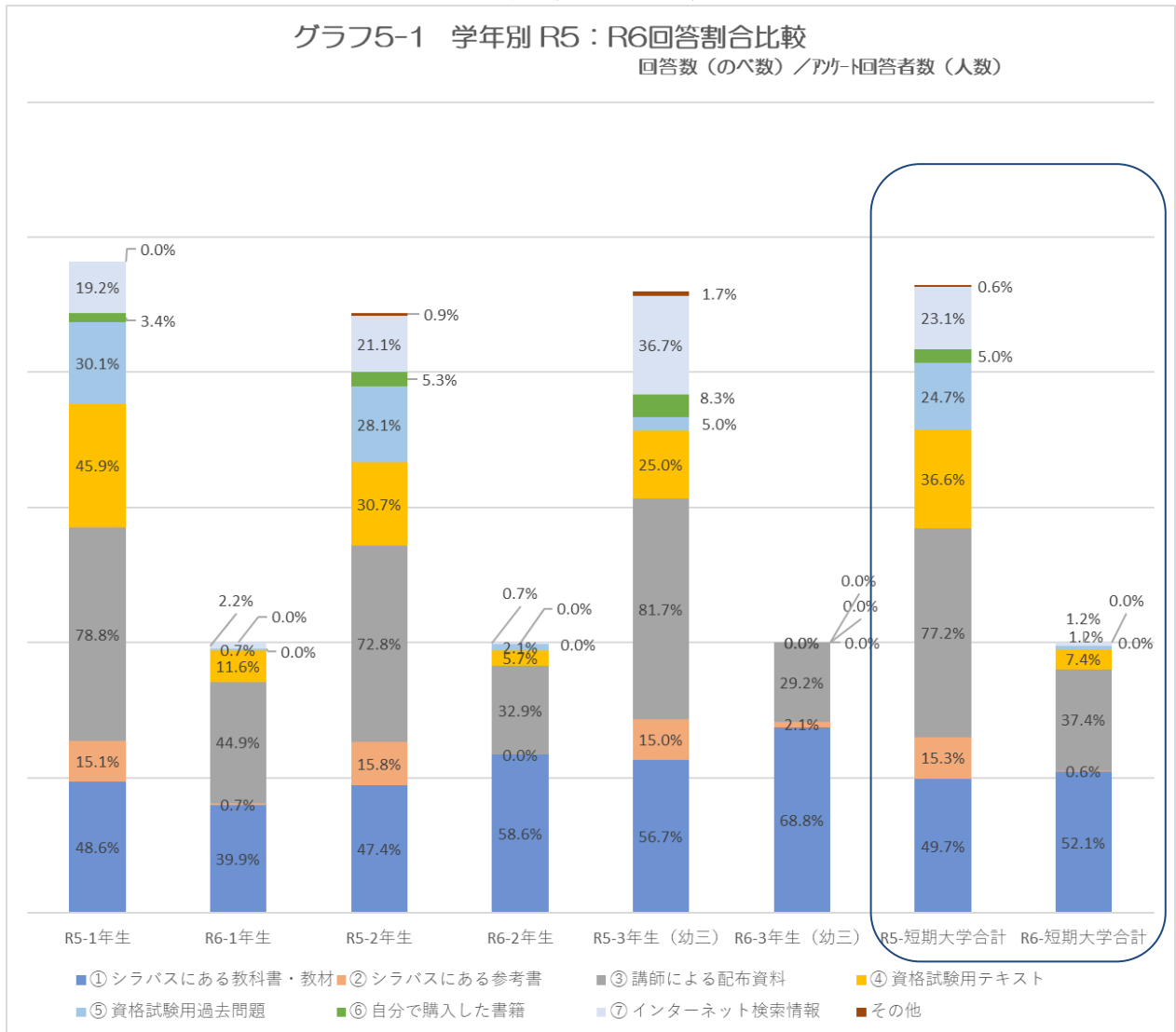
短期大学部全体として時間数が増加した理由は、生活・製薬コース1年の時間数増加である。生活文化学科の時間数増加、幼児教育学科第一部の時間数増加、幼児教育学科第三部の時間数減少について、その理由の詳細を明らかにすることが、学習時間の確保とディプロマポリシーにある能力の向上にもつながると考えられる。

生活文化学科においては、R6から1年生で受検できる検定が増えたことが、学習時間を増大させている。製菓コースの1年生の学習時間が非常に増大しているが、これは検定の受検に加え、R5に比して製菓実習の準備等に時間を要していることが影響している。

幼児教育学科第一部2年生のほとんどが奨学生（S50）であり、R5調査の1年次から学習時間が相対的に長い。昨年度の第一部2年生も、ほぼ同様の条件であったが、理由は判然としない。あえて要因として考えられるのは、公務員採用試験の受験率が高く、その対策講座と学科教員による指導に時間を使ったことが考えられる。



問5. 予習・復習に用いる教材はどれですか。(複数回答可)



短大全体で予習・復習で最も多く用いられているのは「① シラバスにある教科書・教材」52.1%。

昨年度は「③ 講師による配布資料」が最も多かったが、今年度はアンケート回答者中37.4%で、昨年比39.8減少。今年度は「① シラバスにある教科書・教材」が最も多く、アンケート回答者中52.12%で、昨年比2.4%増加であった。

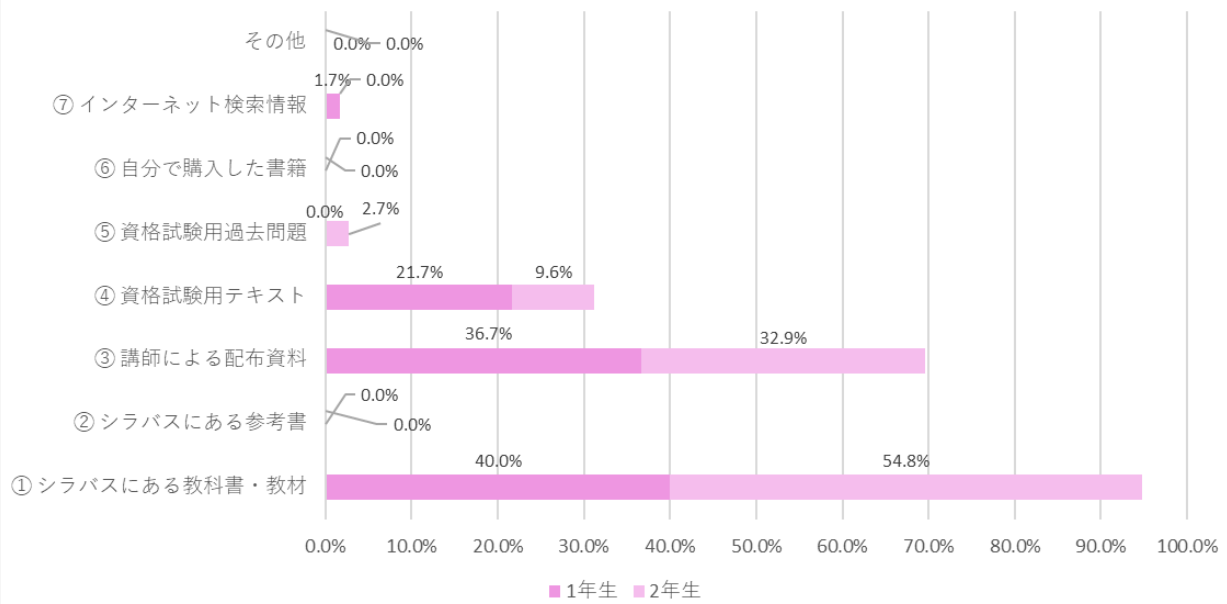
「④ 資格試験用テキスト」7.4%、昨年比29.2%減。「⑤ 資格試験用過去問題」1.2%、昨年比23.5%減と続いている。

2、3年生の割合順は、短期大学全体と変わらないが、1年生は「③ 講師による配布資料」が、「① シラバスにある教科書・教材」を上回った。

予習・復習に用いる教材を学科別にみると次のグラフのようになる。

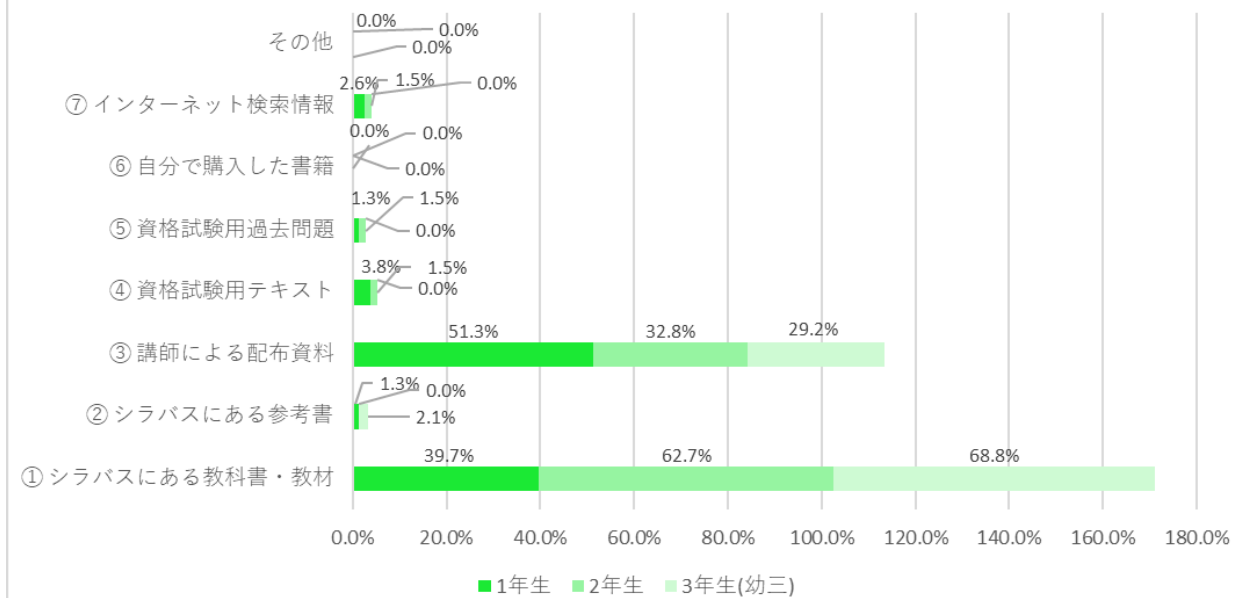
グラフ5-2 生活文化学科 回答割合

回答数(のべ数) / アウト回答者数(人数)



グラフ5-3 幼児教育学科 回答割合

回答数(のべ数) / アウト回答者数(人数)

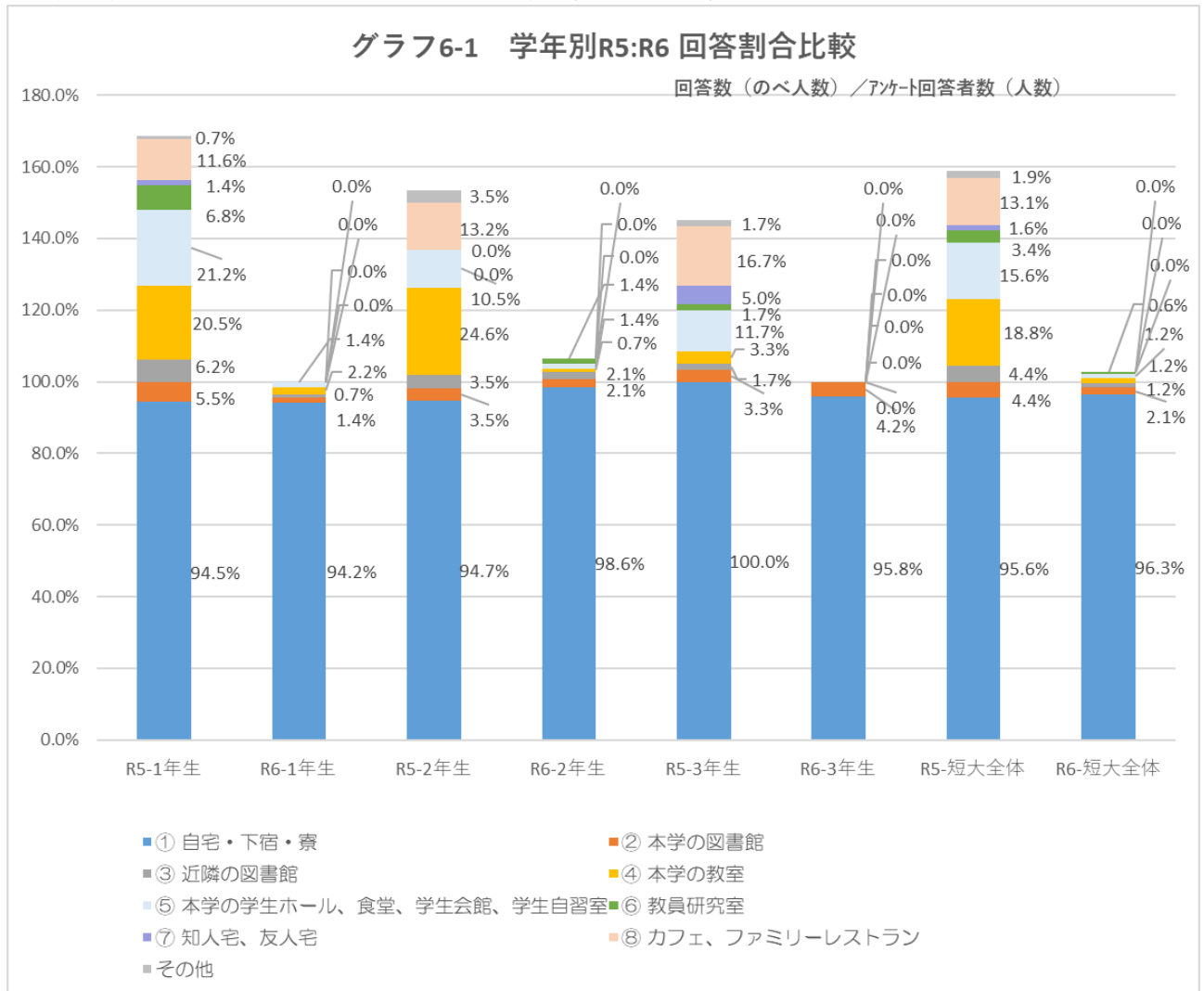


両学科とも「① シラバスにある教科書・教材」が最も多いが、学科ごとにみると以降の教材選択に違いがあることが分かる。

生活文化学科は資格系の教材を選択した学生が多い。

幼児教育学科は、資格系の教材より「① シラバスにある教科書・教材」が多くなっている。資格試験等の受験機会が多い生活文化学科と授業単位取得が資格に繋がる幼児教育学科の特性が現れていると思われる。

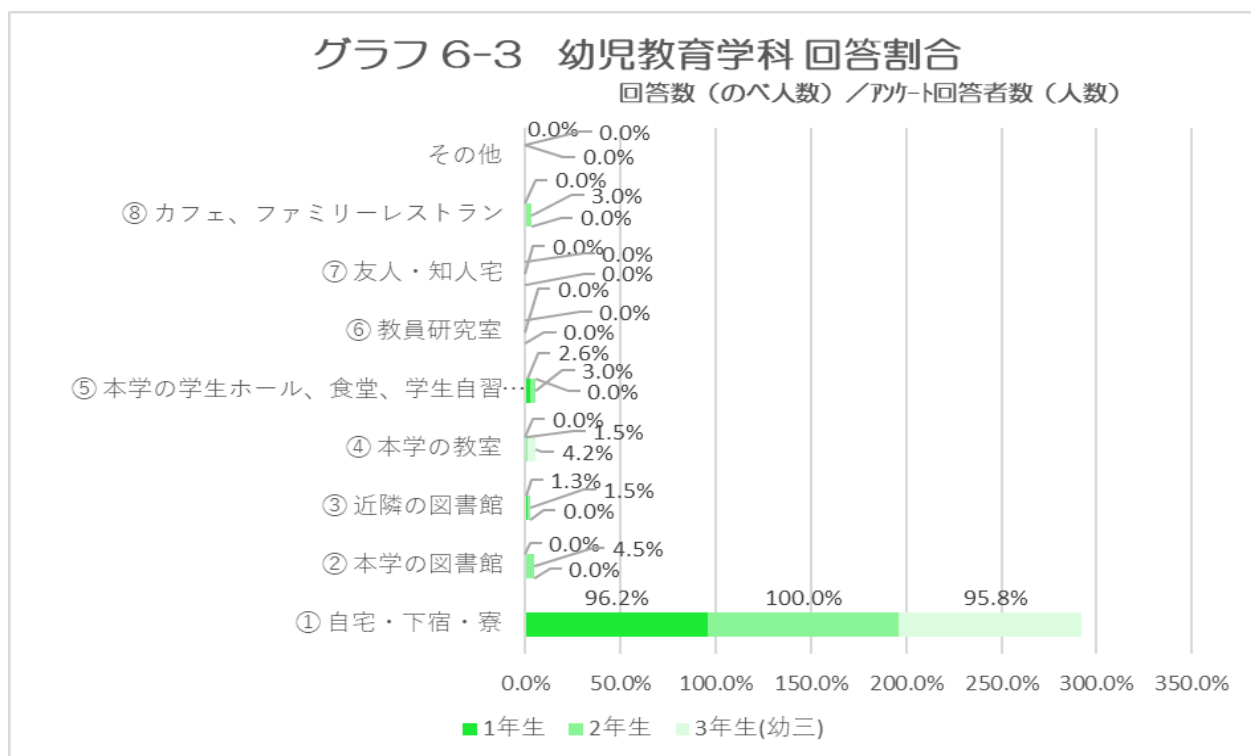
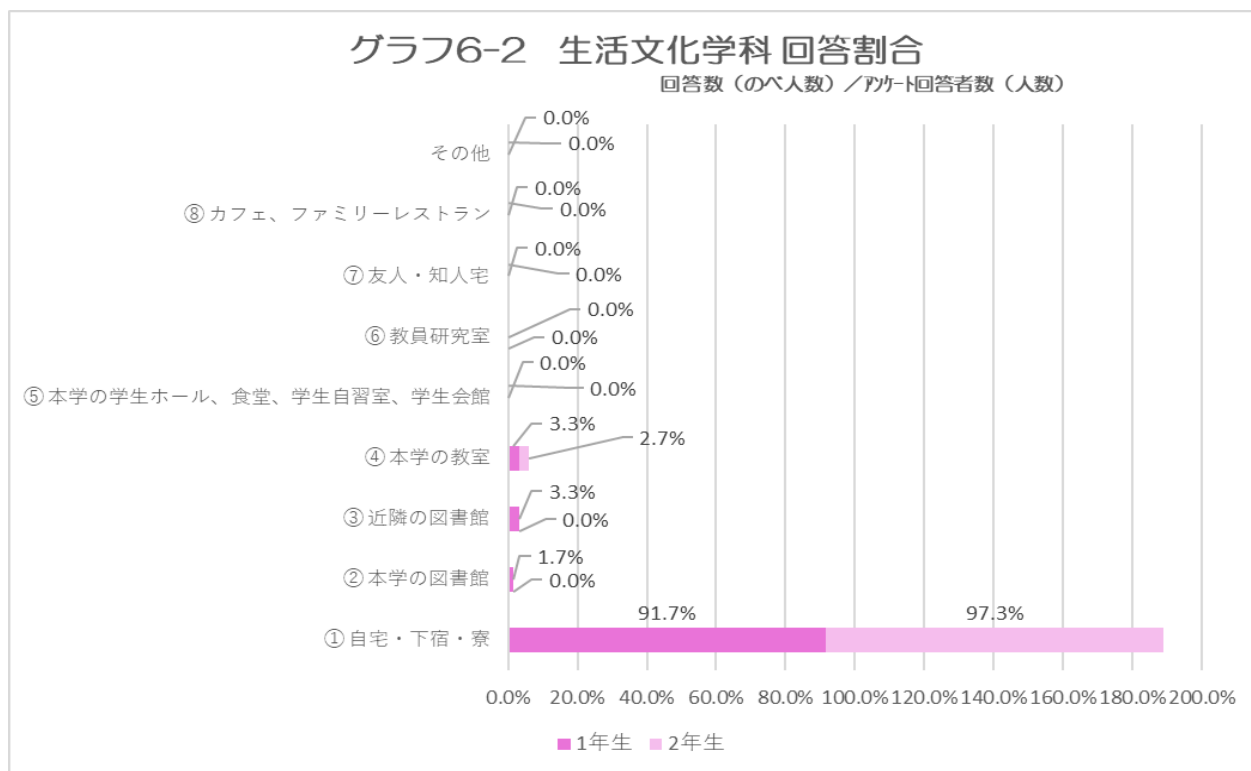
問 6. 普段、学習している場所はどこですか。（複数回答可）



普段の学習場所は昨年に続き圧倒的に「① 自宅・下宿・寮」で96.3%という結果であった。

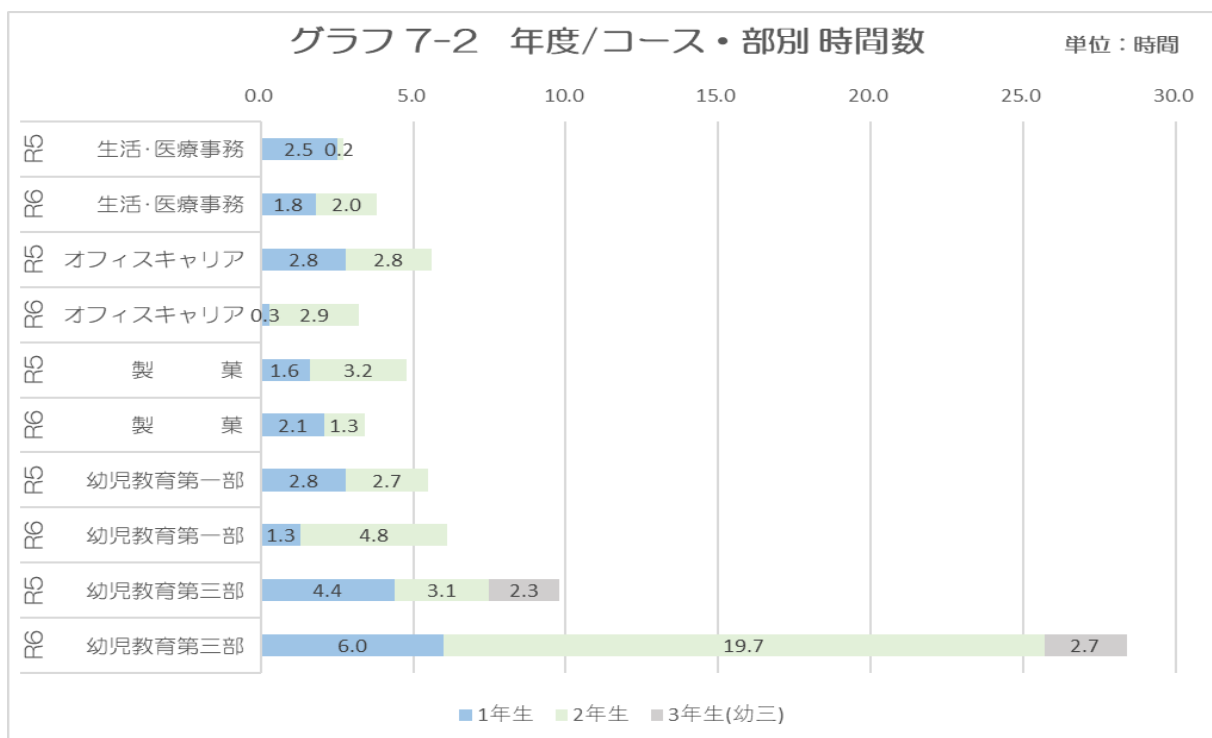
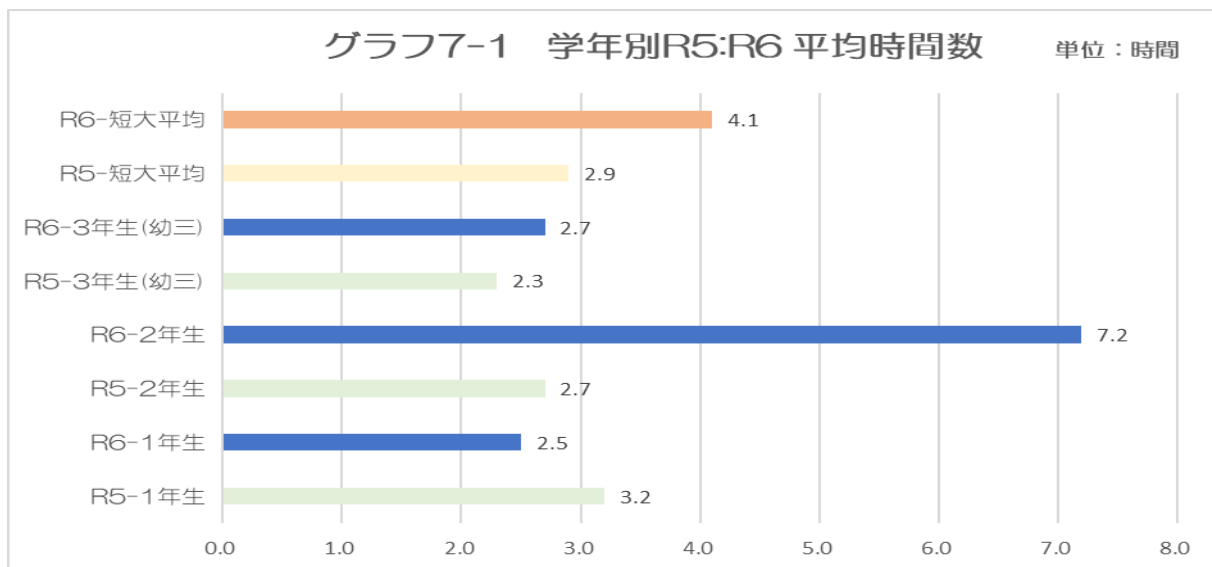
昨年度と比較して、「①自宅・下宿・寮」の割合はほぼ変わらないが、それ以外の場所はほぼ0%に近づいている。自宅・下宿・寮での学習がほとんどで、学内での学習が低下している。図書館等の利用促進を強化することが求められる。

学習場所を学科別にみると次のグラフのようになる。



「① 自宅・下宿・寮」が両学科とも最も多い回答数だが、次は生活文化学科が「④ 本学の教室」、幼児教育学科が「⑤ 本学の学生ホール、食堂、学生自習室、学生会館」で学科ごとの違いがある。

問7. 授業時間以外で、学習やクラブ活動、友人との交流のために学内にいる1週間の合計時間を記入してください。

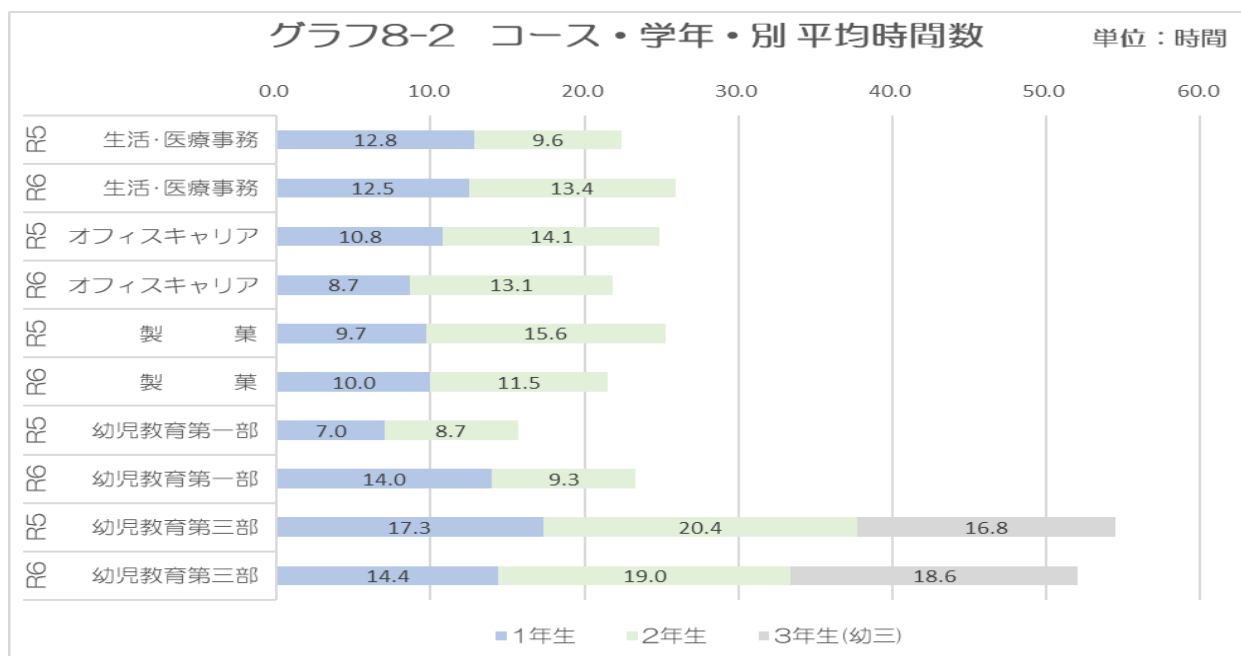
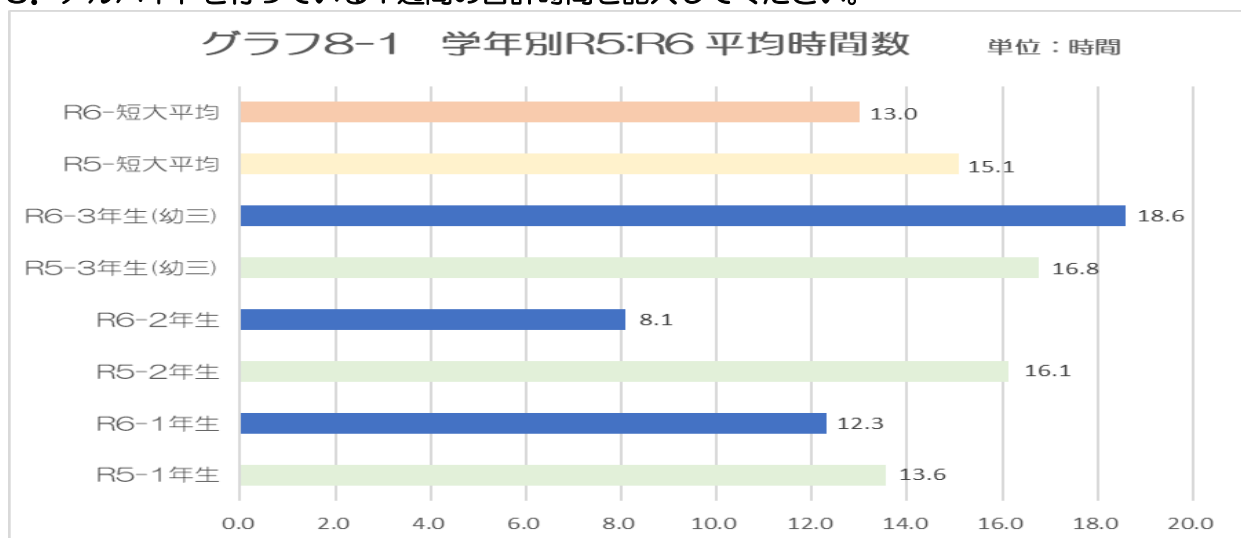


短大全体で授業以外で学内にいる時間は、1週間の平均で4.1時間という結果であった。

グラフ7-1のとおり、昨年度と比較して1.2時間学内滞在時間が多くなった。中でも多くなったのは2年生で、4.5時間増えた。この理由がある程度分かると交流の推進の手掛かりとなるかもしれない。

この結果をコース・部別でみたのがグラフ7-2である。幼児教育学科第三部2年生が最も多く滞在時間は19.7時間であった。続いて幼教一部2年生4.8時間、オフィス2年生2.9時間となっている。

8. アルバイトを行っている1週間の合計時間を記入してください。



短大全体でアルバイトを行っている時間は、1週間の平均で13.0時間という結果であった。

グラフ8-2のとおり昨年度と比較すると2.1時間減少した。どうしても午後後に授業のない幼児教育学科第三部が多い時間数となるが、夕方以降にしかアルバイトができない学生の時間数が少ないとは言い切れない。

<回答データから週20時間以上アルバイトをしている学生を抽出>

| 学年  | 生活・医療 |       |       | オフィス |       |       | 製 菓  |       |       | 第一部  |       |       | 第三部  |       |       |
|-----|-------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|
|     | 回答者数  | 20H以上 | 割合    | 回答者数 | 20H以上 | 割合    | 回答者数 | 20H以上 | 割合    | 回答者数 | 20H以上 | 割合    | 回答者数 | 20H以上 | 割合    |
| 1年生 | 24    | 4     | 16.7% | 13   | 1     | 7.7%  | 23   | 4     | 17.4% | 15   | 5     | 33.3% | 63   | 15    | 23.8% |
| 2年生 | 23    | 5     | 21.7% | 17   | 5     | 29.4% | 33   | 4     | 12.1% | 8    | 3     | 37.5% | 59   | 30    | 50.8% |
| 3年生 |       |       | -     |      |       | -     |      |       | -     |      |       | -     | 48   | 27    | 56.3% |
| 合計  | 47    | 9     | 19.1% | 30   | 6     | 20.0% | 56   | 8     | 14.3% | 23   | 8     | 34.8% | 170  | 72    | 42.4% |

問9. 予習、復習を行うためにどのようなサポートを必要としますか。

<生活文化学科>

生活・医療事務コース

1年生

- ① 先生に質問できる機会がほしい
- ② テキスト
- ③ 予習するべきテキストのページ指定がほしい
- ④ 特になし

2年生

- ① 参考資料が欲しい
- ② 予習、復習のプリント
- ③ 問題の出し方を伝えてくれること
- ④ 少しずつ課題を出して授業内容を振り返れるようにする
- ⑤ プリント配布
- ⑥ 参考資料がたくさんほしい
- ⑦ 出題されやすい問題の対策講座
- ⑧ 勉強会
- ⑨ 過去問をとく
- ⑩ 間違えた問題を毎回解く
- ⑪ プリントで難しいところを詳しく書いて配布してほしい

オフィスキャリアコース

1年生

- ① テストがどのように出題されるのか
- ② 特になし
- ③ 友達と相談しながらできるスペースも作る

2年生

- ① プリントかクラスルームで内容を教えて欲しい
- ② プリント配布
- ③ 特になし

製菓コース

1年生

- ① とくになし
- ② 演習問題ほしい
- ③ 仮問題を作ってテストに向けてやりたい
- ④ 過去問が欲しい
- ⑤ 資料の配布

2年生

- ① 計画表をたてる
- ② テキストの貸し出し

- ③ テキストの貸し出しを行って欲しい
- ④ 特になし
- ⑤ 過去問
- ⑥ 静かな環境
- ⑦ 範囲をまとめたプリントが欲しい
- ⑧ 詳しい見やすい資料などの配布

<幼児教育学科>

第一部

1年生

- ① もっとわかりやすいテスト対策プリント作って欲しい
- ② テスト対策プリントとかもっとわかりやすいのがほしい
- ③ まとめプリントもう少しほしい
- ④ 自主勉強用配布プリント
- ⑤ 要点をまとめたプリントがほしい
- ⑥ なし

2年生

- ① 具体的な範囲

第三部

1年生

- ① まとめプリントの配布
- ② 授業の復習課題など
- ③ 課題を出して欲しい
- ④ どんな風に勉強したらいいのか
- ⑤ 重要なところを授業で強調して欲しい
- ⑥ 雑談が多すぎる先生は減らして欲しい
- ⑦ 問題集
- ⑧ 問題数
- ⑨ 実りのある授業内容
- ⑩ やりかた
- ⑪ なし
- ⑫ 特にありません
- ⑬ プリント配布
- ⑭ 仕方？
- ⑮ ワークや問題集が欲しい
- ⑯ リメディアルを増やしてほしい
- ⑰ とくにありません
- ⑱ まとめのプリントがほしい、プリントによって違うことが書いてある教科は統一してほしい
- ⑲ 学習ワーク
- ⑳ ないです



2年生

- ① なし
- ② 特になし
- ③ テキストをもっと増やしていただきたい
- ④ テスト対策プリント等
- ⑤ もっとピアノのサポート欲しい
- ⑥ ない

3年生

- ① 対策プリントがほしい
- ② わかりやすいレジュメ
- ③ レジュメの穴埋め用のプリント
- ④ テストで出るところを詳しく教えてほしい
- ⑤ 宿題、ワーク
- ⑥ 聞きやすい環境
- ⑦ 特になし
- ⑧ 次の授業の内容の指示
- ⑨ 特にありません
- ⑩ 特にない
- ⑪ テスト内容のまとめプリント
- ⑫ なし
- ⑬ 復習プリントの配布
- ⑭ 授業の総まとめプリントが欲しい

問10. 本学の学習環境を向上するために希望することを自由に記述してください。

<生活文化学科>

生活・医療事務コース

1年生

- ① 特になし
- ② 空き教室を自由に使えるのがうれしい
- ③ 満足しています！

2年生

- ① 個室部屋
- ② 自習できるところを増やす
- ③ 特にない
- ④ プロジェクター、後ろにテレビがあるタイプはつけて、後ろの人でもちゃんと見えるように
- ⑤ とても涼しい部屋
- ⑥ ない
- ⑦ 特にありません

## オフィスキャリアコース

### 1年生

- ① 特になし
- ② 自習時間を作る

### 2年生

- ① 特になし

## 製菓コース

### 1年生

- ① とくになし
- ② スクリーンをもう少し見やすくしてほしい
- ③ ない
- ④ 希望ない
- ⑤ 実習室が欲しい
- ⑥ 学習時間の確保

### 2年生

- ① 計画する
- ② 静かにできる環境を作って欲しい
- ③ 静かにできる教室が欲しい
- ④ 特になし
- ⑤ 環境の良い学習室をつくる
- ⑥ 十分満足です
- ⑦ 特になし
- ⑧ 友達と会話する場所と学習する場所を区別する

## <幼児教育学科>

### 第一部

#### 1年生

- ① とくになし
- ② 特になし

#### 2年生

- ① 快適です

### 第三部

#### 1年生

- ① 特になし
- ② 特になし
- ③ 環境設備の改善
- ④ 実践系を授業に取り入れる
- ⑤ 授業の取り組み
- ⑥ 学生ホールの照明がくらい
- ⑦ ワークや問題集が欲しい

⑧ 分からない

⑨ ないです

## 2年生

① なし

② 特になし

③ ピアノのグループ分けは進捗度順なのはやめて欲しい、自分の力を勝手に決めないでほしい

④ 簡単に使える自習室

⑤ バスの増加

## 3年生

① 設備

② 自習室を作ってほしい

③ 実習分の授業を考えて時間割を作ってほしい

④ 8305の椅子が座りにくい

⑤ 8305の椅子が座りにくい、滑りやすい

⑥ 特になし

⑦ 特にありません

⑧ 公務員対策のテキストが難しく感じたのでもう少し分かりやすいテキストがいい

⑨ なし

⑩ とても満足している

⑪ 図書館がとても快適